大館中

主体的に学習に取り組む生徒の育成

～必要感・切実感のある協働的な学びの工夫を通して～（３年計画の３年次）

校長　　木　村　政　和

１　研究主題について

本校の学校目標である、「お互いの良さを認め、目標に向かって挑戦する生徒の育成」に迫るため、上記の研究主題を設定した。

昨年度は、生徒の学習意欲や学習方法の改善をねらいとする協働的な学びの場面の工夫により、本校の研究主題の達成を目指した。年２回の生徒授業評価アンケートを比較すると、「わからない自分に気づいて声をかけられたり、わからない相手が頼ってくれたりすることが、授業の目標の達成に役立った」と考えている生徒が増加した。また、教師の説明(話及びプリント)を、「役立った」という感覚でとらえる生徒が多く、このことから、学びの主体が自分であるという意識をもてるようになってきていると考えた。ただ、依然として「交流」や「協力」についての記述が多いことから、授業における「協働」についての捉え方が指導者によって様々であることもわかった。

このことから今年度は、「必要感・切実感のある協働的な学びの工夫」を通して、「主体的に学習に取り組む生徒の育成」を目指す。協働性が生まれる課題を設定すること、目標を達成するために必要不可欠な協働的な学びの場面を設定することで、仲間の指摘やアドバイスを参考にしながら、目標を自分ごととしてとらえたり、自己の学習方法を工夫・改善したりすることにつながると考える。この結果、全生徒が、「仲間がいたからわかった、仲間がいたからできた、仲間がいたから身についた」を実感できると考える。また、これらの活動で気づいた、仲間の良さや自分の成長をサポートする仲間への感謝が、次の学習への意欲を引き出したり持続させたりするものになると考える。これらの実践研究を通して、学校目標の具現化につなげていきたい。

２　研究のねらい

問題解決のための必要感・切実感のある協働的な学びの場面の工夫により、主体的に学習に取り組む生徒を育てる。

３　研究仮説

授業の目標や学習活動のねらいを明確に示し、協働的な学びが必要とされる課題の設定や、個人の課題解決のために生徒同士で試行錯誤させる場面を意図的に設定することで、生徒の主体的に学習に取り組む力を高めることができると考える。

４　研究内容

(1)　生徒から「問い」や「思い」を引き出し、学習課題を「自分ごと」として捉えられるよう、資料や課題の提示の仕方を工夫する。技能教科や知識・技能を身に付ける場合でも発問を工夫し、生徒が主体的に学習に取り組めるような課題を提示する。【八戸市の重点内容】

(2)　学習課題と学習内容の整合性を図りながら、協働的に解決しなければならない課題を意図的に提示したり、生徒同士の相互評価の場面を設定したりする。【校内研の重点内容】

５　研究の経過

(1)　研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名・講師・成果・授業の概要　等
４	５	第１回校内研　　概要：必要感・切実感のある協働的な学びの工夫についての研究
４	２６	第２回校内研 概要：研修計画・研究主題・研修方法の共通理解・指導案の書き方等の共通理解
６	９	第３回校内研　　概要：教科会議（指導案検討会）
６		授業参観月間の設定①（～6/27） 概要：「協働的な学び」「主体的な学び」の視点で授業参観
６	２８	第４回校内研　　概要：授業参観のフィードバックと 「協働的な学び・主体的な学び」についての協議
７	４	１学期授業評価アンケート実施（全校生徒）
７	１１	教育指導課・総合教育センター訪問　　概要：授業後の指導主事との教科別協議会
８	１８	第５回校内研　　概要：１学期授業評価アンケートの考察
１０		授業参観月間の設定②（～11/15） 概要：「協働的な学び」「主体的な学び」の視点で授業参観
１１	１６	第７回校内研　　概要：授業参観のフィードバックと 「協働的な学び・主体的な学び」についての協議
１２	１３	２学期授業評価アンケート実施（全校生徒）
２	２１	第９回校内研　概要：全体会（成果と課題、授業評価アンケート集計結果、 次年度の主題について）

(2)　一般研修

月	日	内容・講師・概要等
７	１１	第６回校内研（要請訪問） 教　科：道徳　　学　年：1学年　　授業者：教諭　日向敦子 主題名：自分の行動に責任をもつということ　　教材名：裏庭での出来事 助　言：八戸市教育委員会　青木拓哉指導主事 概　要：「協働的な活動をする必要感・切実感を喚起する発問の工夫について」 「多様な考え方と出合わせ、協働させる場をつくるための工夫について」
１	５	第８回校内研（研修報告会）　　概要：全日本中学校道徳教育研究大会の報告（日向）

６　研究の成果

(1)　グループや他者と協力して課題を解決する協働的に学ぶ時間は、安心して学べる雰囲気づくりと内容の理解につながっていると感じている生徒がおおむね多い。また、授業評価アンケートから、内容に応じて解決手段を変えて取り組むようになった、テストに合わせて計画的に自分の課題を進められるようになった、と答える生徒も増え、主体的に学習に取り組む態度が身についてきていると感じる。

(2)　１時間の授業や単元ごとに行う振り返りが、自分の成果や課題を見つける手段となり、そのことを仲間と共有することで、次の学習の動機付けや軌道修正につながっている。

７　研究の課題

(1)　生徒自身が自分のタイミングや判断でやり方を選び、その結果に責任を持たせるために、学習課題を自分ごととして捉えられるような切実感のある課題と協働的な学びを必要とする課題の内容と提示の仕方の工夫が必要である。また、多様な学び方の提示や試行錯誤する時間、振り返りを共有して学習計画を立てる時間も必要である。

(2)　授業参観月間で教科の枠を越えて互いに授業参観し、生徒が主体的に学習に取り組む力をつけるためのしかけとなる協働的な学びとなっているかを見取り、情報共有する研究協議を設定したが、深まりのある議論はできなかった。研究協議の場が協働的な活動となるような計画が必要である。

（記入者　今　　昌子）